

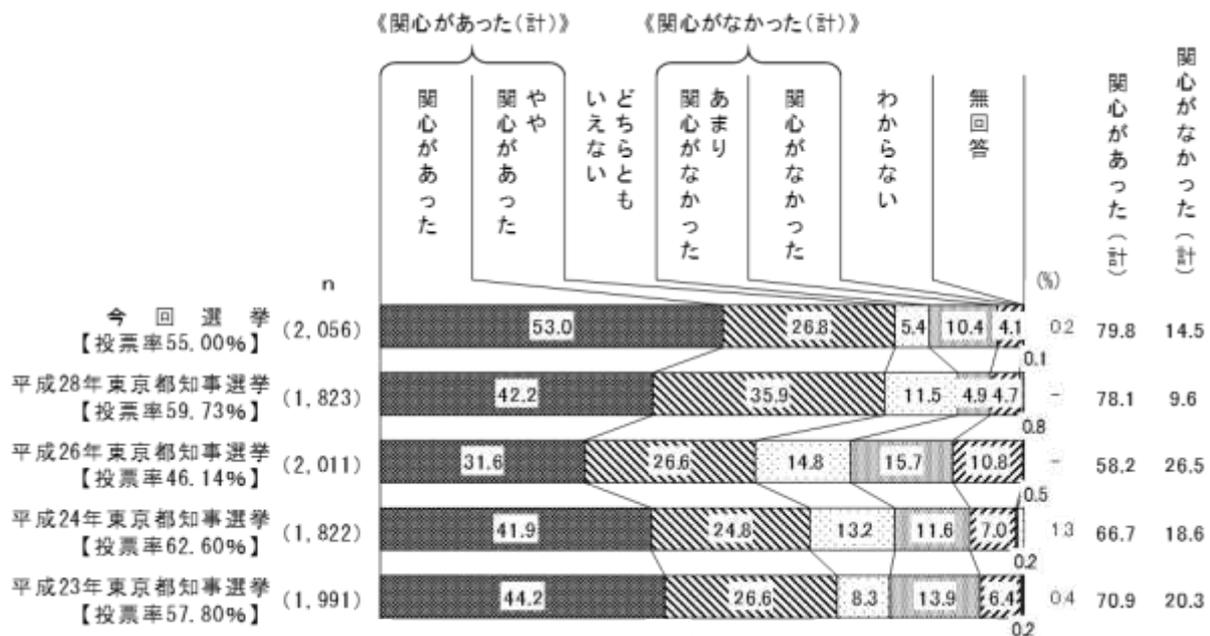
世論調査の結果（概要） （令和2年7月5日執行東京都知事選挙）

- 1 選挙への関心度では、全体の約8割が「関心があった」と回答
- 2 棄権理由では「新型コロナウイルス感染症が心配だったから」が最も多い
- 3 前回都知事選と比較してネット上の情報を参考にした割合が増加

○調査概要

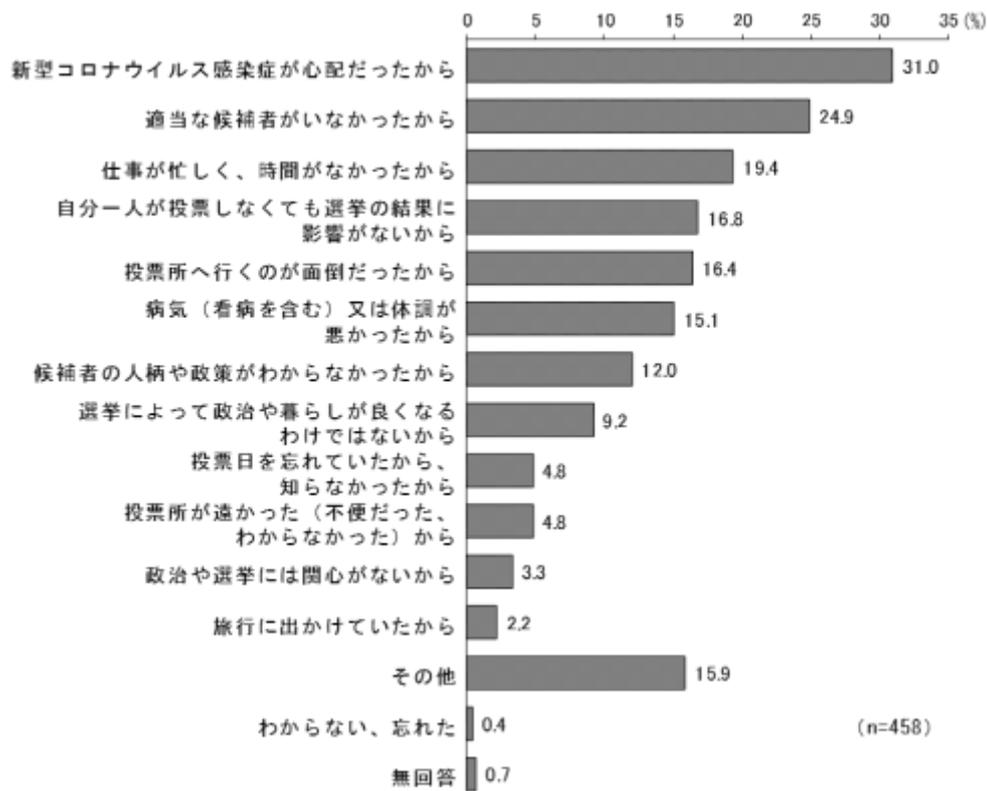
調査地域	東京都全域（島部を除く）
調査方法	調査票配送法（調査票返送及びWebページによる回答）
調査対象	調査地域に居住する満18歳以上の有権者
調査対象数	4,000人
調査回収率	51.4%（2,056件）

1 選挙への関心度では、「関心があった」「やや関心があった」は全体の約8割



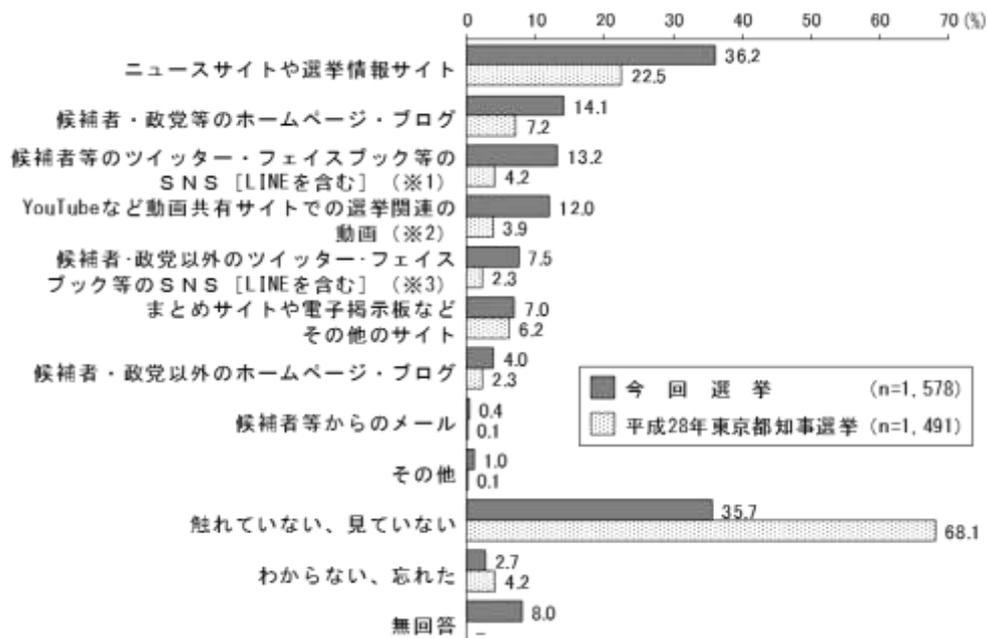
平成28年に行われた東京都知事選挙の調査結果と比較すると、「関心があった」が5割台半ばと10.8ポイント増加した。「関心があった（計）」は約8割と、平成20年以降の東京都知事選挙では、最も高い割合となっている。

2 「新型コロナウイルス感染症が心配だったから」が最も高い棄権理由



今回新たに、選択肢に「新型コロナウイルス感染症が心配だったから」を追加したところ、最も高い棄権理由となった。

3 ネット上の情報を参考にした割合が前回選挙より増加



「ニュースサイトや選挙情報サイト」が3割台半ばと最も高く、平成28年選挙と比較して13.7ポイント増加している。また、候補者、政党等のホームページ・ブログ等、候補者が発信している媒体、SNSや動画共有サイトでの選挙関連の動画の割合が増加している。